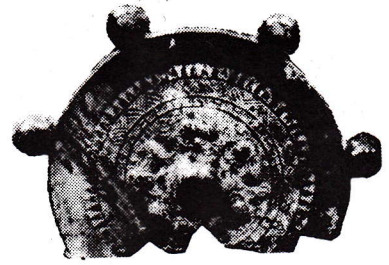


文化財 やまと

大和町文化財保護協会発行



七鈴五獣鏡

大和町の指定文化財

展示会開催のことも

会長 土 松 新 逸

大和町文化財保護協会創立十五周年記念事業として、平成四年十月三十一日・十一月一日の両日にわたり、大和町民祭に協賛して、大和町内の指定文化財展示会が開催されました。町教育委員会の絶大なご後援と、町文化財審議会委員諸氏のご協力、会員皆さんの献身的な協力によって、予期以上の盛会でありましたことは誠にありがとうございます。この展示会を開催しましたところ、当日はほとんど全員の出席を得、展示文化財の搬入、展示会当日の会場管理など細部にわたり真剣に、熱心に協力していただき、ほんとうに力強く感じました。

平成三年十一月の役員会において、十五周年記念事業についてお諮りしました際、町内文化財を展示して広く紹介してはという要望があり、思い立ったのでしたが、さてどういう形で実施すべきか、全く見当がつかず迷いました。平成四年四月執行部会において町民祭の協賛事業としてはという案が出され、教育委員会のご賛同も得、会場は三階の大会議室を当

幸い教育委員会の指定手続きは順調に進み、新規に町指定文化財となったものが、彫刻十二件（石造狛犬八対と二体、円空仏二体、石造観音像三十三体）、絵画五件（方便法身尊像四点、上人像一点、書跡一件、歴史資料二件（高札八枚、板札一枚、不明一枚、懸仏四面）、工芸器二件（灰釉水滴一点、懸仏九面、鏡一面ほか）、天然記念物三件（社叢一ヶ所、立木二木）、史跡一件（古墓群）、無形民俗一件（やわた踊り）、など二十七件）におよびました。ちなみに、右文化財指定により、大和町の指定文化財は、国指定二件、県指定九件、町指定七十一件、合計八十二件となりました。

は写真で展示しました。また、東氏館跡出土遺物は三万点以上になりますので、その一部を特別出品しました）は、本町では初めてのことであります。殊に、中世における長徳寺、清浄寺、西宝寺、恩善寺蔵の方便法身尊像や、中神路白山神社、上古道白山神社、上栗巢白山神社（下ノ宮）、牧明建神社、剣金剣神社、万場熊野神社、名血部白山多賀神社、島七代天神社等の大小様々の石造狛犬、東林寺跡出土の懸仏、または、伝木蛇寺本尊木仏、細川家・西念寺の円空仏等々がずらりと並べられたまは、実に豪華なものであります。恐らくこうした展示会の、再度の実現は容易なことではないと思えます。

両日の来場者は、千数百名以上だったと思えますが、会場閉鎖後に来場されて残念がって帰られた方も何人かおられました。

この展示会につき、当初一抹の不安はあり、途中に多少苦悩することもありましたが、結果的には総てが順調に進み、展示は予想以上に立派に出来ました。これは、全く会員の皆さんの献身的なご協力のたまものと深く深く感謝申し上げます。

続文化・文化財雑感 (完)

森 藤 幸

(一)、二、三は前号までの掲載)

一、大和町重要文化財指定基準

(一) 絵画彫刻の部

(二) 書跡・典籍・古文書の部

(三) 工芸の部

(四) 考古の部

(五) 建造物の部

二、大和町重要無形文化財指定基準

(一) 芸能関係

(二) 工芸技術関係

三、大和町重要民俗資料指定基準

四、大和町史跡名勝天然記念物指定基準

(一) 史跡

(二) 名勝

(三) 史跡

(四) 名勝

(五) 史跡

(六) 名勝

(七) 史跡

(八) 名勝

(九) 史跡

(十) 名勝

(十一) 史跡

(十二) 名勝

関する遺跡

(一) 社寺の跡又は旧境内、経塚その他祭祀信仰に関する遺跡

(二) 藩学・郷学・私塾・文庫その他教育学芸に関する遺跡

(三) 慈善施設その他社会事業に関する遺跡

(四) 関跡・一里塚・並木街道・条里制跡・堤防・竈跡・市場跡その他産業交通土木に関する遺跡

(五) 墳墓及び碑

(六) 旧宅・園地・井泉・樹石及び特に由緒がある地域

(七) その他の重要な遺跡

(八) 名勝

(九) 一次にあげるものうち、町

にとって芸術上価値の高いもの

(一〇) 庭園

(一一) 花樹・花草・紅葉・緑樹

(一二) 古戦場その他政治軍事に

関する遺跡

(一三) 鳥獣・魚虫などの生息する場所

(一四) 岩石・洞穴

(一五) 峡谷・瀑布・溪流・深淵

(一六) 湖沼・温泉・浮島・湧泉

(一七) 火山・温泉

(一八) 山岳・丘陵・高原・平原

(一九) 展望地点

(二〇) 天然記念物

(二一) 一次に掲げる動物、植物及び

鉱物のうち、町にとって学術上価値の高いもので自然を記念する物

(二二) 動物

(二三) 著名な動物及び生息地

(二四) 自然環境における動物

(二五) 又は動物群衆

(二六) 植物

(二七) 名木・巨樹・老樹・崎

形木・栽培植物の原木・並木・社叢

(二八) 稀有の森林植物相

(二九) 原野植物群落

(三十) 高山植物帯・特殊岩石

(三一) 地植物群落

(三二) 地泉・温泉・湖沼、河

等の珍奇な水草類・藻類、せんたい類、微生物等の生ずる地域

(三三) 着生草木の著しく発生

する岩石又は樹木

(三四) 岩石・鉱物及び化石産

出状態

(三五) 地層の整合及び不整合

(三六) 地層の褶曲及び衝上

(三七) 生物の働きによる地質現象

(三八) 地震断層など地塊運動

(三九) 洞穴

(四十) 岩石の組織

(四一) 風化及び浸食に関する現象

(四二) 大和町重要無形文化財の保持者の認定基準

(一) 芸能関係

1 大和町重要無形文化財に指定される芸能、芸能の技法又は技能若しくは技術を高度に体现できる者

2 大和町重要無形文化財に指定される芸能、芸能の技法又は技能若しくは技術を正しく体得し、かつ、これに精進している者

3 大和町重要無形文化財に指定される芸能の性格上保持者とすべき者の保持する無形文化財に個人的特色が薄く、かつ、保持者とすべきものが多数である場合には、

それ等の者の代表者を保持者(代表者)として認定することができる

(二) 工芸技術関係

1 大和町重要無形文化財に指定される工芸技術又は技術(大和町重要無形文化財指定基準 (一) 工業技術関係 第一号に規定する技術をいう。以下同じ)を高度に体得している者

2 大和町重要無形文化財に指定される工芸技術又は技術の性格上保持者とすべき者の保持する無形文化財に個人的特色が薄く、かつ、保持者とすべき者が多数である場合には、それ等の者の代表者を保持者(代表者)として認定することができる

六、記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗資料の選択基準

(一) 次に掲げる無形の民俗資料のうち、その由来、内容等において、町民の基盤的な生活文化の特色を示すもので典型的なもの

(二) 衣食住に関するもの

(三) 服飾習俗・飲食習俗・居住習俗等

(四) 祭礼・節会・行事等

(五) 方言・民謡・歌謡等

(六) 伝説・民間信仰等

(七) 農林・漁業・工業等の技術

(八) 職人の技術・技能等

(九) その他

(十) その他

(十一) その他

(十二) その他

(十三) その他

(2) 生産・生業に関するもの

農耕・漁獵・工作・紡織等
に関する習俗

(3) 交通・運輸・通信に関するもの

旅行に関する習俗等

(4) 交易に関するもの
市・行商・座商・両替・質
等の習俗

(5) 社会生活に関するもの
社交儀礼・若者組・隠居・
共同作業等の習俗

(6) 口頭伝承に関するもの
伝説・昔ばなし等

(7) 信仰に関するもの
祭祀・法会・祖霊信仰・田
の神信仰・巫俗つきもの等

(8) 民俗知識に関するもの
暦類・禁忌・ト占・医療・
教育等

(9) 民俗芸能・娯楽・遊戯・嗜
好に関するもの
祭礼行事・競技・童戯等

(10) 人の一生に関するもの
誕生・育児・年祝・婚姻・
葬送・墓制等

(11) 年中行事に関するもの
正月・節分・節句・盆等

(12) その他の無形の民俗資料のうち、大和町重要民俗資料の特質を理解するために特に必要

なもの

(三) 他民俗に係る無形の民俗資料が、わが町民の生活文化との関連上特に重要なもの

以上で約束の文化財法の諸規程の全文の紹介を終わります。

無計画で思いつくままを三年かかって並べただけで、趣旨も意義も通らず脈絡もないようだ。無責任のようだがそれは「雑感」と言うことでお許し下さい。どうかどう

れだけでも参考にして頂いて身近で文化財を見付けて、私達委員会か教育委員会へご連絡下さればありがたいと思います。この機会に「雑感」の追加を一つ。

このごろ町内牧地区の明建神社付近一帯は、空が大きく明るく開けて急速に様替りをしている。

それは町の歴史民俗資料館の東つづきの、栗東川両岸地帯約二・五ヘクタールに及ぶという地域でそこに当町の町おこし事業の古今伝授の里づくりの拠点である「史跡の里公園（仮称）」が、約八億円の総事業費で、近日完成を目標に急ピッチの工事が進められている。

昨年の「広報やまと」三月号で紹介された「史跡の里公園」（仮

称）着工の記事でそのアウトライ

ンが知らされていたが、日々変貌する地域の上に想像を馳せると、そこには躍進する町のイメージが縮図として浮かび、高い文化の香

りがただよう中、みなぎる町の活力がひしひしと胸にひびいてくる。

今までに町として、教育施設は別として、見返りのない文化事業に何億という巨費を投じたことがあっただろうか。町にとっては未曾有ともいえるべき大事業で、着工に至るまでには幾多のう余曲折のあったことは思われるが、町おこしの理念と町の歴史に徹して難関を克服し、事業をここまで推進して来られた町議会の英断と、町当局のご苦勞に対し、少しでも文化、文化財を口にする者として満腔の敬意を捧げ感謝の意を表するものである。

我々は国内でも他に例のないような難事業に、あえて挑戦した大和町の運命を自覚し、日本一の事業である否日本一にしなければならぬ。自負と誇をもって、この事業の完遂を期さなければならぬ。それは当町発足時町名を「やまと」と命名した由来であり意義でもある。

町指定文化財

昨年度から本年にかけて左の二七件が町指定になりました。

天然記念物（下記は管理者）
牧水神社のむくろじ

徳永多賀神社社叢 山内孝一
牧の滝日家のイチイ 滝日 治

彫刻
中神路白山神社石造狛犬一対 山田正明
上古道白山神社石造狛犬一対 稲葉照三

上栗栗白山神社（下の宮）石造狛犬一対 小清水清
牧明建神社石造狛犬一対 粟飯原高照

大間見白山神社石造狛犬一対 松井 博
剣金劔神社石造狛犬一対 河合 恒

万場熊野神社石造狛犬一対 大中保男
名血部白山多賀神社石造狛犬一対 下広茂一

島七大天神石造狛犬一対 奥田徳保
古道西念寺薬師如来座像（白空作） 歳藤堅正

古道細川家薬師如来座像（白空作） 細川 優

白雲山三十三所観音（石造） 山下光男

繪画
絹本着色阿弥陀如来立像（長禄元年） 畑中浄園
絹本着色阿弥陀如来立像（明応元年） 松井賢雄

絹本着色阿弥陀如来立像（明応元年） 野田恵光
絹本着色阿弥陀如来立像（明応元年） 渡辺一純

書跡
絹本著色教如上人寿像（慶長九年） 渡辺一純

紙本墨書蓮如上人筆六字名号（虎斑の名号） 遠藤秀雲
歴史資料
劍宿の高札・板札一二枚 河合 恒

史跡
剣白雲山観音堂古寺懸仏四体 山下光男
牧東林寺跡古墓群 加藤一男

工芸品
大間見諏訪神社懸仏九面外 坪井政夫
牧土松家瀬戸灰釉水鳥形水滴 土松貞二

無形民俗
島七代天神大神楽・やわた踊り 奥田徳保

観音堂と法金剛院

高橋義一

(一) 白雲山観音堂由緒記

(前略)

大治五年(一一三〇)鳥羽上皇中宮待賢門院が、真言仁和寺に御願寺法金剛院を建てると及び、美濃国郡上郡栗垣郷は、郷長・郡司・国司らによって寄進され、美濃国山田庄上保・下保が成立した。当地域が極上の美濃紙の一大生産地であることが、最大の魅力であった。そして山田庄の中心地当山には、法金剛院にちなんで十一面観音の大堂を建て、同庄の庄務・徴税・検察を司る庄所を併設した。

久安元年(一一四五)待賢門院は娘の上西門院(後白河天皇皇后)に寺領を譲って、山田庄は皇室御料所の女院領となり、当山は美濃国郡上の一大観音霊場として栄えてゆく。しかし承久乱(一二三二)で朝廷が幕府に敗れ、家人東氏が山田庄に入部して、近くの阿千葉城に居したため、観音堂は急に衰

えた。最後は火災に遭って消滅するが、時期は不明である。

天保一四年(一八四三)大いなる古寺堂の遺跡を悼んで、剣・大間見両村の者が、その跡に小堂を建て、同山中でひろった小金銅仏を祀った。三年後には、郡内外の寄進も請けて、石像三十三所観音を古い参道沿いに建立した。――(観音堂の遺跡遺物に加え、古文書・荘園資料・『大和町史』等によって由緒をたず)

一九九二年一月吉日
白雲山観音堂保存会

一昨年は、観音堂に向けて、剣赤保岐・大間見天王両面から、林道が敷設された。昨年は、多くの浄財を得て立派な新堂を再建し、右のような由緒記が作られた。しかし今年・来年度に、観音堂遺跡の発掘調査が行われ、由緒の改訂が考えられるので、核心的な部分

だけ載せて、注で左に説明する。
注一 栗垣郷 律令制時代国郡郷の郷は、行政上の単位で、一郷は五〇戸と定められた。郡上郡は、郡上郷・安郡郷・和良郷・栗垣郷の四郷とした。栗垣郷地域の推定は、八幡町那比・同五町・同小駄良・同寒水以北・高鷲村・白鳥町石徹

白まで。
2 上保 保とは、荘園内にできた行政上の単位である。上保は、北限白鳥町前谷・南限同中津屋和田川・東限同牛道・西限大和町島で、高鷲村、石徹白は域外。

3 下保 上保以南の元栗垣郷内。4 極上の美濃紙 律令制国郡郷の制度と同時に、国の役所・郡の役所が設置され、必要な紙は地元で生産確保し、官庁図書寮へは割り当て分を納めた。当栗垣郷は、郡上郡役所の所在が推定されている。

注5に述べるが、山田庄の本来(ほんけ)領主・領家の上司筋(上西門院(じょうさいもんいん))では歌詠みが盛んで、女房の上西阿千葉城に居住門院兵衛は有名であった。神・上・髪・紙は貴く大切なものであった。二二首勅撰和歌歌詠みにはその紙は欠かせず、山田庄の紙は、女房庁にとってな

千葉氏六統のうち、東氏の祖胤頼は若い時上西門院に仕えて、従五位下(昇殿を許される地位)を賜わるといふ当時としては破格の出世をした。胤頼の歌詠みの素養はその時身につけたとみられ、子の重胤も父にならって郡警護の役につき、歌を詠んだ。その子胤行もまた上京して、歌の大御所藤原定家の子為家に歌を習い、勅撰和歌集に二二首入撰するという、坂東武者中随一の歌人となった。後には鎌倉將軍筆頭の祐筆・側近となつて歌詠みに侍した。

承久乱の戦功で胤行は没官地となつた上西門院領山田庄を加領されたが、そこは前述した下保の部分とみなされる。そして胤行は千葉東庄を長男泰行に任せ、行氏は山田庄下保阿千葉城に居住させた。行氏も二二首勅撰和歌に入撰している。とにかく、胤

行も晩年郡上荊安戸谷(乗性寺の前跡と推定)に安住するなど、東氏は本拠を美濃国郡上に移したの呼ばれる自然の要害地であり、水豊かで米の生産力ある平地の多いこと、上質の紙をすいていたことが原因に上げられる。反対に東庄は利根川の下流で銚子に隣り海抜〇米に近い。開拓はせいぜい高くて五〇米くらいの丘陵地に拓かれた荘園(東胤頼が拓いて神宮御厨に寄進)であつて、守るに難く、生産性の低い所であつた。しかもそこには、まったく紙の生産がみ



法金剛院本堂

られない。そのことは、鎌倉末期、初めて「古今伝授」の様式を整えた東顯義による莊園の状況報告書からうかがえる。

また東庄は、山田庄より上京日数が四倍もかかるが、両地からの鎌倉幕府まではそんなに差はない。

近世においては、郡上は厚紙・薄紙などに上質の紙をすいた。除けば千葉東庄より恵まれた皇室女院領であって、なお多くの開拓余地のある所であった。従って、東氏は新たな莊園開拓契約のもとに、下民と一体になって拓くとい

う坂東武士団らしく、盛んに田畑を開拓し、紙すきや養蚕も増進して、力を蓄えて行ったとみられる。

室町期の郡上東氏九代常縁は、將軍の命で軍団を率いて東征したが、歌は当代並ぶ者がなかった。

高名な連歌師宗祇にしたように、

た。公家・將軍に歌を教え、京都へ土産物として紙を持参し、宗祇

などへは色紙(しきし)を分け与えていることが史料に散見される。

近世においては、郡上は厚紙・薄紙などに上質の紙をすいた。

「天郡上」などとよく記されている紙は極上の薄紙で、典具帖・天具帖とされるものである。これは土佐が特産にしたが、もとは美濃

国が多く生産していた。

紙すきは清流で冬期に行うが、冷たい水ほど艶のある上質の紙ができる。神路川・大間見川・小駄

れて地元問屋が潰れ、各戸にあった紙屋(かみや。古代紙すき工房の呼称)は急速にすたれた。収入のよい養蚕業に切り替わったのである。しかし武儀郡下の山間では、耕地が少なく昔からの問屋との貸借関係が断ち切れず、貧困のまま紙屋を続けた。上有知(こうずち、美濃市)が紙の市場で、大問

屋兼金資元が何軒もあり、紙屋の潰れを防いだことにも由縁して、武儀郡が和紙の代名詞、美濃紙の唯一の生産地として、戦前・戦直後まで続く。

生産を廃止した郡上へ出す紙は、

「郡上はむかし上等な紙をすいていたから、郡上へ出荷する紙は、よく品を改めて出すように」と問

屋筋は注意を呼びかけていたという。事実、私どもが町内の古文書を調査して、その紙が上質・極上

であることに驚嘆する。山田庄を歌どころの上西門院・東氏が領有した真のわけが理解される。

5 庄所(しょうじょ) 観音堂

には古くから、礎石・五輪塔群(二五基分。町指定重要史跡)や

古池・井戸などが知られていた。町史編集時に、最上段の古墓群を名大考古学教室が発掘した。盗掘

は明らかで、上期古瀬戸壺片と、

一〇三九年発行の皇宋銭片一個を発見した。下段から

は骨壺にした古瀬戸四耳壺一個(町重文)が偶然に発見された。

礎石の配列は、九、五米×一、一、七米の本堂と、その東裏に、五、〇米×六、八米の下

屋を併設したものであることがわかる。

莊園時代の上期は、庄所を持つて管理していたが、賊に襲われて

いるのをよく見かける。

山田庄全域を見るに、中世にこれだけの遺構跡のある所は無く、そ

の変わった礎石の配置は、堂に庄所を併設したものであると推定す

る。なおこの堂跡から、懸け仏数体がすでに発見され、うち保存会

が保管している四体は町重文に指定された。



十一面観音とその厨子

丈六の阿弥陀如来





地蔵菩薩立像

四本手という異形。鎌倉後期の作とされる。鳳凰の盛上彩色文・截金文やよろらくは、おびただしく荘厳である。厨子(国重文)は三方開きの扉に十二天、背板に三十三身応化図が色鮮やかに描かれ、内蔵の十一面観音と共に、まさに豪華けんらんと言わ以外にない。

当法金剛院は、京都十三仏第十番霊場・関西花の寺第十三番霊場とされている。平安時代から生じた観音浄土信仰のもとで、如来と共に観音が本尊とされていたようである。十一面が鎌倉後期の唯一の金銅仏になって

め皇室関係者の御願によって建てられた。法金剛院も院寺としては最後の一番番目に建てられたものである。しかし応仁の大乱が起きるや、仁和寺は堂塔が全焼した。徳川将軍家光は二四万両を寄進して復興したが、法金剛院は元和三年和尚の勸進で、本堂・経蔵等を建てたが旧に復することが出来なかったとしている。他の仏像には国重文で、平安期作の一木彫僧形文殊菩薩・同期作同地藏菩薩があって、共にすばらしい。

京の花弥陀けん爛に待ちませり
塞翁がはるばる京に花冷えす
嵐山花押せ押せとみやごどり
花あらし禅の石庭かごかきす
塞翁が京の花くづみやげにす

は在位一年足らずで、自ら剃髪して上西門院を号し、母の建てた法金剛院に入り、上西門院庁を開く。女院庁は、上皇・法皇の院政庁に対するもので、いわば江戸時代の大奥に匹敵し、強い権力を持っていた。例えば、平安末から任せられて権限が強かった検非違使(けびいし)にまねたのか、「上西門院庁保定使」というのを任じ、

のまま復元して、文部省特別名勝に指定されている。待賢門院が極楽浄土の理想を造園化した「池泉廻遊式浄土庭園」と称せられるものである。「青女の滝」は近年発掘され、巨岩を積んで滝とした構造は雄大である。背景の山は五位山と呼ばれ、頂上には待賢門院・上西門院母娘の陵がある。

③律宗唐招提寺末法金剛院は、住職の説明の中にもあったが、元は真言宗仁和寺に属した寺である。仁和寺は、同院の北五百米くらい所に豪壮な仁王門を構えている。宇多天皇が仁和四年(八八八)に完成したもので、当初の寺城は広大で、明治維新まで歴代天皇の皇子・皇孫が門跡を勤め、堂塔院室は天皇はじ

荘民が夫役などに少しの倦怠をしても禁固刑に処し、田畑も取り上げるといふ厳しい権限をふるった。

②仏像は、本尊に阿弥陀如来(国重文)があつて、平安時代の藤原仏を代表するものである。粉溜塗り、寄木造りの大座像。蓮弁の彫刻や舟形後背の彫刻は、まことに豪華。平等院・法界寺と並んで京都の三大阿弥陀仏と称せられる。

十一面観音菩薩(国重文)は粉溜塗りの青銅製等身大の座像で、

(二)法金剛院

①今年四月八日、我々文化財保護協会の一泊二日の定例研修で、初めて京都法金剛院を拝観し、大きな感銘を受けた。

庭園は、平安時代の遺構をそ

は

は

は



研修旅行 仁和寺にて

つるぎじゆく 劍宿について

有代信吾

我が国の運送制度であったこの制度を宿駅制度または伝馬制といひ、この宿を伝馬宿(てんましゅく)といった。

劍宿の創立はというと、残念ながら資料がないので判然しないが考えられるのは、元禄五年(一六九二)井上氏が常陸国(茨城県)から入部し、郡上郡の外に越前国大野郡のうち六九か村を併せて領有するようになって劍宿の必要が生じてこの頃に創設されたものと考えられる。尤も下田宿(美並村)は寛文年間すでに伝馬宿があったという記録が残っている。

当町剣に「宿」があったということをご存じの方は少ないのではあるまいか。昨年四月から七月まで四回にわたって郷土史研究会でお話をしたメモを手がかりに、かいつまんで劍宿について紹介したいと思う。

「宿」には宿場といわれた旅人を宿泊させる施設をいう場合と、一定の人馬を常時用意して、宿から次の宿へと人や荷物をリレー式に継ぎ送る制度の宿をいう場合がある。劍宿というのはこの後者の宿である。この制度は古く、すでに大化の改新の頃に始まり明治初年に陸運会社の創業まで続い

た。そのため毎年郡上藩から米十三表を下付していたが、これだけでは宿の経営はとも困難なので、越前街道を上下する民間の荷物を運びその駄賃で公用荷物運送の赤字を補填していたのである。しかし、それにも限度があり、やりくりがつかなくなると郡上藩へ増米や、借金の願いを出している。また劍村だけではこの伝馬役に耐えられないので、大間見村・小間見村・牧村が添え宿として劍宿を助けてきた。天保四年の宿の勘定書を見ると、下され米十三俵、その中から役人の泊まり五人、昼食百人の飯代が一石一斗三合三勺その外の諸費用を差し引くと残り三石一斗九升八合七勺となり、これを一年間の出勤人足五八三人二分で割ると人足一日当り五合四勺となっている。この年はまだよい方で、天保七年は二合三勺、同じく十二年には三合四勺となっている。生活程度の低い時代とは言ってもこれでは耐えられなかったと思われる。

これを補うために、先にも述べた様に宿にかかる民間の荷物運送の駄賃収入であるが、これは白鳥・高鷲以北の飛騨方面から上有知(美濃市)への油荳・稗・木紙などが主な荷物であった。しかしこれらの荷物も荷主がだんだん利口になって、宿の馬を使わないで自分鐘の牛に付けたまま、一定の料金(十六文ほど)を支払って通る様になった。これを付け通しといひ、この料金を上前銭と称し藩公認のものであった。年がたつに従いルーズになって上前銭を払わないで宿を通過するようになったので、劍宿では怒って嚴重に取り立てるようになった。このため起こったのが上ノ保奥組との上前銭紛争であるが藩の裁断では劍宿が不利に終つたようである。

このような紛争が起きたのは、御用荷物は無賃またはそれに近い賃銭で運ばねばならないという封建制度の極めて強い伝馬制度にあつたと言えよう。上前銭紛争は劍宿のみでなく下田宿でも天明年間に飛騨の六厩村外十七か村との間で起きて、江戸評定所で約半年間の訴訟をしている。この裁判には劍村庄屋善左衛門と組頭助右衛門が証人として出廷している。

こうした矛盾に満ちた一般庶民の犠牲の上に成り立った伝馬制度は明治維新になるまで長く続けられてきたのである。



劍宿に立てられていた高札

嵯峨野を訪ねて

—小督塚—

井 俣 初 枝

出てくるとても有名な話なので、内容がご存じの方も多いと思いますが、古典芸能でもある能としてよく舞われます。

花冷えのする小督のお墓は、ひっそりと佇み、その隣に小督庵がありました。きつと清盛に捕らえられ尼にさせられて住んだ所ではないでしょうか。

ときの天皇高倉院は、中宮徳子よりも小督を寵愛され、中宮の父平清盛の怒りを小督は恐れ、嵯峨野のいずこかに身を隠したのでした。小督は琴がたいへん上手で、必ず弾くに違はなく、その音をた

文化財めぐりの旅は、私にとっ
ては今回で三度目。私はどんな旅
よりもこの旅が大好きなんです。
京都・奈良へはあまり行ったこと
がないから。京都に入ってから
お天気はあまりよくはなかったけ
れども、雨も邪魔になる程ひどく
はなくホッとしました。

「花の家」に着き、荷物を置く
のもそこそこに、限られた時間内
で名勝・史跡を一つでも多く見よ
うと七、八人連れ立って嵯峨野散
策に出かけました。まずは嵯峨野
の一角にある小督塚、小督庵を訪
ねてみることにしました。

小督といえば、「平家物語」に

の潤いが恋しくなる……」ふと、
こんな詩を思い出しながら平家物
語や南北朝の歴史をしのんで歩く
旅はどれほど心を和ませてくれた
ことか。

人はなぜ旅に出るのかと浄園先
生はよく問われます。それは、帰
る家があるから人は旅に出られる
のだと語られます。私はこの言葉
をいつも心にふくめて旅に出るこ
とにしています。今も桜花の風趣
を思わせる嵐山・嵯峨野が一枚の
絵として胸裏に浮かんでくるこ
ころです。

よりに探せと勅使の指示をうけた
仲国が、法輪寺あたりまできます
と、かすかに琴の音が野面を渡っ
て聞こえてくるではありませんか、
曲は「想夫恋」、平家物語を思い
出しながら翌朝駆足でもう一度訪
ねてみました。閑静な住宅の佇む
あたりどこかに柴垣の家はないか
と。

俳人でもあられた京極杞陽さん
の句にこんな句があります。「春
風の日本に源氏物語」もう一句は、
「秋風の日本に平家物語」ここ嵐
山・嵯峨野は私には花のお浄土と
思えました。

「心の乾きを感じたとき、古都

法金剛院にて

うつしみのいのちはかなき世のさ
まを見つめつつげし丈六の弥陀

春風に仏足石もあたたかく花爛漫
の法金剛院

いにしえの大宮人の面影をしのび
佇む法金剛院

文化財展示の意趣

畑 中 浄 園



小督の五輪塔

昨年、本号の巻頭で土松会長が詳
しく述べられているように極めて
盛会であった。ところで執行部の
頭を悩ませたのは、切角の展示会
に町民の皆さんがどれだけ来場し
ていただけるかということであっ
た。その対策として、開催日の数
日前に、色刷りで、「私たちの町
に古くから残っています先祖伝来
の宝物（町の文化財）が始めて皆
様の前に姿を現しました。二度と

ないこの機会を、お見のがしなく
ぜひともごぞってご来場下さい」
という案内を新聞折り込みで町内
全戸に配布した。もう一つ気になることがあった。
それは、この展示会が単なる書画・
彫刻・陶磁器や写真などの展示会
であってはならない。文化財の本
質にここで触れていただかねばこ
の展示会の意味がなくなってしまう
。そこで左記の趣意書を、展示
会場の入り口に墨書して掲げると

ともに、同文を受付けで展示目録に添えて来場者にもれなく配った。「ご来場の皆様へ(中略)私たちが先祖が、数千年も前から、この大和の地に住みつき、原始生活を始めました。以来、大自然の恵みに感謝し、ある時は自然のきびしさに耐えて苦難の道を歩いてきました。その道は縄文から弥生・古代・中世・近世・近代へと連続と続いて現在に至りました。ここに展示された遺品は、すべて私たちの先祖の心と願いがこもっています。そうして私たちに何かを語りかけています。どうかその心と願いに耳をかたむけて下さい。そのことによって、この一室が悠久の過去と瞬間の現在との対話の場となることでしょうか。なお、この展示をきっかけにして、町内の皆様が文化財に対しての敬虔の念と、深い愛情と保護に、より一層の関心を高めていただきますれば、それがこの展示会の目的にもかないました、当協会にとってもこの上もない喜びであります。」(下略)

さらに一言を加えたいことは、この展示会によって、大和町の文化の底辺がきわめて深くかつ厚いことが理解されて、当町の将来を担う若い方々に大きな自信をもつ

ていただきたいというのである。援助に衷心より御礼申し上げます。最後に、この展示会開催にあたって、文化財所蔵者のかたがたの深いご理解に感謝申し上げますと共に、護審議委員の佐藤とき子先生に心からおん礼申し上げます。

▼文化財は物でなく、私達に語りかける心です▲

○過去は現在を写す鏡です
○歴史は過去と現在の対話でしょう
○文化財には先祖の願いがこめられています
○文化財は鑑賞の対象ではありません
○過去の文化を無視しては現代の文化は育たない



平成4年度事業報告

- 4月27日 第1回執行部会 十五周年記念事業、総会の開催について
- 5月1日 「文化財やまと」第十七号発行
- 5月13日 第1回役員会 会計監査、前年度事業報告、決算報告の承認、新年度事業計画、予算案、総会の計画と十五周年記念事業について
- 6月13日 総会並びに記念講演、「ふるりの自然」東氏二七代東胤 先生
- 6月30日 第2回執行部会 十五周年記念事業実行委員会の委嘱について他
- 7月21日 第2回役員会 十五周年記念事業実行委員会
- 7月31日 東氏館跡公園せいそう奉仕 二百名
- 8月7日 薪能「くるすざくら」協賛
- 9月24日 第3回執行部会 十五周年記念事業「文化財展」会場下見展示計画
- 9月29日 第4回執行部会「文化財展」の企画検討
- 10月9日 第3回役員会、十五周年記念事業実行委員会
- 10月14日 第5回執行部会「文化財展」の準備、日帰り研修旅行の計画
- 10月29日 「文化財展」の会場を大和町役場3階1号室に準備
- 10月30日 「文化財展」の展示品を会場に搬入し、陳列、表示等すべて完了
- 10月31日 十五周年記念事業「大和町重要文化財展」開催
- 11月1日 閉会後および翌日にかけて、借り受けた文化財は無事故全て返却する
- 11月12日 日帰り研修旅行 高賀神社・龍泉寺・川浦溪谷・巨大株杉 参加者五名
- 12月9日 第6回執行部会 一泊二日研修旅行計画、役員会の開催他
- 12月19日 第4回役員会 一泊二日研修旅行計画、文化財やまと原稿募集他
- 3月27日 第7回執行部会 研修旅行実施計画、総会開催計画
- 4月8日 一泊二日研修旅行 法金剛院・嵐山・大覚寺・仁和寺・竜安寺

文芸欄

日置 智恵子

俳句

疎開地に古り棲み春の深雪かな
遠山の桜あわあわちぎれ雲

本田 村人

短歌

鏡田にさざ波立てて渡り来る風冷
めたくて春の足踏み
水鏡はつれし髪をかき上げて今日
しまい田の田植え終りぬ

日置 繁

茶の花

茶の花や宝の茶壺龍泉寺

一人居の自問自答や春炬燵
夕闇の発破のひびく二月かな
男坂登るほどよき花のみち

山田 昌枝

まんさく

木島 泉

暮れきらぬ空に向いてあまた咲く
桐の花下野ほとけ立たす
常縁の歌うっさんと湿拓の文字の
深彫り指になぞらふ

雑草を雪が隠くして妻戀ふ
金婚の春三世代で湯に浸る

田中 裕

春灯
碁石おく音の静寂春灯し
寒明けといふやすらぎの朝戸繰る
神の庭あかあかと染め大焚火

まんさくや諸手上げれば空の青
父の骨一日抱きて京の春
しまひ湯の雪降る夜は雪の音

参道にまんじゅしゃげ咲き沿道に
サルビヤの花細き雨降る

土松 新逸

猫柳通して白き白尾山

うつむきて歩いてすみれ見つけたり

直井 すぐ江

榎の実

有代 教信

鷺見 鈴子

雪裂けの枝しがみつかわずかにも
命のあかしの白き花咲かす
別れ告げ個々に埋めゆく白菊の花
も蒼みて雨もそぼ降る

嵯峨野
春さりて花の嵯峨野を訪うと朝早
きひかりの道を急ぐも
見ゆる限り花ばかりなり久に來し

川開き吹雪の中に一人佇つ

黒岩 きくゑ

花ぐもり
花ぐもり妻恋ふ鳥の泳ぎぬし
お涅槃を晴れてたゆとふ水面かな
チョコレートなど縁のなき日向ぼこ

漬菜石家伝来の持ち重り

らうらと人ばかりなり
花明るき京の裏街歩みつつ先行く
ひとのうなじ美わし

鳥帰る
鳥帰る門に懸けたる網代笠
反古焚ひて冬満月をくもらする

待ち針の玉の彩いろ母おぼろ

節分草

木島 泉

矢野原 幸子

表の色にけぶらふ越の雨をきて裸
木の梢のうすべにの彩
亡びゆくものみな美しき糸蜻蛉お
りふし瑠璃の身を反らしるる

花冷えの京の裏街歩みつつとうふ
料理の看板目に立つ

散る紅葉

田中 まさを

風花や身をよせあひて鯉沈む
雪しまき小鳥やふやく黄楊の木に
栗剥けば老ひの諸手に入る力

河合 芳江

風花

節分草に今朝のあられの弾みけり
ひとつづつこと終わりゆき春たけて
やまつつじ折れぬ高さの崖の上

平成五年 四月末日現在

會員名簿

(順序不同)

一 剣一

山下運平(顧問)	二四〇六	村井正藏(監事)	二三三三	畑中淨園(副会長)	二四四一	遠藤賢逸	二二二一	田口勇治	三九五〇
篠 勝美(顧問)	二〇三二	青木新三	二四三六	畑中真澄	二四四一	渡辺明夫	二六九五	斎藤大門(理事)	三九二二
村瀬喜八	二二二八	日置 繁(理事)	二二五四	石神莞生	二四一三	木島三郎	三五九〇	日置一郎	三六七四
山下真一	三三九五	大野紀子	二二三〇	稲葉春吉	二五〇三	矢野原吉夫	二一三九	松森 茂	三九二三
河合俊次(理事)	二二四六	野田英志(理事)	二二八五	黒岩きくゑ	二四六〇	村瀬弥一	二六〇二	加藤一男	二八七〇
畑中澄子(理事)	三五〇七	小野江暹量(理事)	二七二六	寛 明代	二五三二	清水幸江	二〇一九	清水 定	二七一〇
畑中定夫	二二六八	清水一作	三〇八六	三島秋男(理事)	二四六一	横枕千代子(理事)	二三四九	日置元衛	三四一七
小池久江(理事)	二五七六	山下直美	三九三八	桑田和子	二四一九	清水テル子	二〇二一	本田欽一	三二六〇
国枝貞雄	二二九三	池田充彦	三〇九〇	桑田渥見	二四四六	前田 孝	二一〇一	野田一末	三〇四三
山下ふみえ	三三二七	小野江勉	二七二五	桑田信夫	二四一八	前田 鈴	三六六六	尾藤佐紀子	二三五三
加藤正恵	二二〇七	池田栄枝	二二八五	黒岩弘美	二四五八	白田とも子	二二五〇	一 栗巢一	
高橋 明	二四八八	池田恒純	二八七九	井俣初枝(理事)	二七五八	白田百合子	二〇四六	島崎増造(監事)	二二三六
日置照郎	二〇七二	日置智恵子(理事)	三〇五二	青地正男	二四四七	森 忠敬(顧問)	二〇八三	増田洋子	四〇四一
加藤文蔵	二八〇二	松井 直	四〇八五	大井静子	二三三八	白田尊徳	三七三〇	算政之助(理事)	四〇三一
佐藤光一	三三〇一	坪井政夫	四〇九二	大井正明	二八九四	羽生 清	二二七一	中山周左エ門	二七二八
田中 裕(理事)	二二〇〇	松井賢雄(理事)	三九九一	旗 清子	四一七〇	山田真人(理事)	二二一四	武田信康	二二八四
高橋義一(理事)	三七九二	古田 忠	四〇九〇	田中なみ	三六二〇	一 牧一		鷺見豊夫	二七八八
河合 恒	二三五八	井口一雄	四〇二〇	一 徳永一		金子 徹(理事)	三四二六	野田光誠	四〇二七
河合芳英	二三〇四	藤代順行	三〇六〇	木 島 泉(理事)	四一八二	滝日準一(理事)	二七〇五	一 古道一	
加藤小式	二二三九	松井 薫	三九九一	鷺見鈴子	二〇〇五	粟飯原高照	二三六二	一 名血部一	
奥村千代子	二〇二二	池田柳松	二三五五	鷺見おと	二二八九	土松康二	二七二九	清水克巳	二八六二
武藤正文	三一九〇	大野一道	二二三〇	直井すゝ江	三五九二	日置貞一	二六六二	清水行雄	三九〇八
河合久子	二一〇三	佐藤義子	四〇一〇	矢野原幸子(理事)	二〇七七	土松貞二	三九八〇	有代信吾(副会長)	三七九一
田仲龍子	二三六一	玉木吉郎	三四一五	田中まさを	二〇六七	日置 昇	三六三六	有代和夫	二二〇一
山下昭代	二四〇六	青木ふじ枝	二二〇三	山内孝一	二六一六	遠藤米吉	三六三七	尾 藤 由	三四三〇
畑中節子	四一五六	小野木花子	二七四七	木島洋女	二五九一	遠藤光平	三九八一	森下正則	三四一三
				土松新逸(会長)	二七三一	遠藤周一	二八九〇	下広茂一	三八九五
						滝日義一(理事)	三〇六二	佐尾チドリ	三五四四
						滝日 治	三四〇六	立石春枝	三八八五

- 森藤 幸 (顧問) 二七〇六
- 森藤雅毅 (理事) 二六八四
- 須甲甚一 二六六七
- 山田長次 (理事) 三六四八
- 山田昌枝 三六四八
- 森 数雄 二五五四
- 山田 良 二七九一
- 田中 篤 二七九二
- 直井篤美 二六二二

平成五年度事業計画(案)

- 4月 執行部会
- 5月 役員会・機関紙発行
- 6月 総会並びに研修会
- 7月 執行部会
- 郡上文化財保護協会の町
- 文化財めぐり協賛
- 東氏館跡庭園除草作業奉仕
- 8月 薪能「くるすざくら」協賛
- 9月 執行部会
- 10月 役員会・郷土史勉強会
- 11月 日帰研修旅行
- 12月 執行部会・役員会
- 2月 執行部会
- 3月 一泊研修旅行

平成4年度 (決算)

平成5年度予算書(案)

(収入の部) (単位:円)

(収入の部) (単位:円)

項目	予算額	決算額	増減	摘要
前年度繰越金	182,071	182,071	0	
会費	1,688,000	1,703,000	35,000	2,000×137
- 会費	268,000	274,000	6,000	
- 特別会費	1,400,000	1,429,000	29,000	
補助金	50,000	162,000	112,000	
寄附金	1,000	25,000	24,000	土松 16,000、森藤 5,000、平沢 2,000
諸収入	3,929	14,266	10,337	3年度研修費戻入金 13,604、利子662
合計	1,905,000	2,086,337	181,337	

項目	予算額	前年度額	増減	摘要
前年度繰越金	102,043	182,071	△80,028	
会費	1,500,000	1,668,000	△168,000	
- 会費	300,000	268,000	32,000	2,000×150
- 特別会費	1,200,000	1,400,000	△200,000	5,000×40 25,000×40
補助金	50,000	50,000	0	
寄付金	1,000	1,000	0	
諸収入	1,957	3,929	△1,972	
合計	1,655,000	1,905,000	△250,000	

(支出の部)

(支出の部)

項目	予算額	決算額	増減	摘要
会議費	100,000	168,090	68,090	
- 総会費	50,000	120,000	70,000	
- 役員会費	50,000	48,090	△1,910	
事業費	1,658,000	1,714,533	56,533	
- 研修費	1,510,000	1,470,729	△39,271	秋季15,240、春季156,489
- 15周年記念行事費	88,000	180,974	92,974	
- 会報費	60,000	62,830	2,830	
事務局費	36,000	23,671	△12,329	
- 消耗品費	5,000	6,551	1,551	
- 通信費	15,000	13,120	△1,880	
- 旅費	10,000	0	10,000	
- その他	6,000	4,000	△2,000	有代氏花代 4,000
助成費	80,000	78,000	△2,000	
予備費	31,000	0	△31,000	
合計	1,905,000	1,984,294	79,294	

項目	予算額	前年度額	増減	摘要
会議費	110,000	100,000	10,000	
- 総会費	50,000	50,000	0	
- 役員会費	60,000	50,000	10,000	
事業費	1,420,000	1,658,000	△238,000	
- 研修費	1,350,000	1,510,000	△160,000	
- 会報発行費	70,000	60,000	10,000	
- 15周年記念事業費	0	88,000	△88,000	
事務局費	35,000	36,000	△1,000	
- 消耗品費	5,000	5,000	0	
- 通信費	20,000	15,000	5,000	
- 旅費	10,000	10,000	0	
- その他	0	6,000	△6,000	
助成金	80,000	80,000	0	
予備費	10,000	31,000	△21,000	
合計	1,655,000	1,905,000	△250,000	

次年度へ繰越し 収入 2,086,337 - 支出 1,984,294 = 残高 102,043

◎「古今伝授の里」の完成も目睫にせまり、大和町のイメージが大きく変わろうとしています。当協会が今後この方面にも協力しなければならぬことが沢山あるうかと思えます。

◎昨年度の文化財展示会が予想外の盛況であったことは、会員の皆さまの一致協力の賜でありました。今年度の諸行事にも是非多数ご参加下さいますようお願いいたします。

(平成五年五月、畑中記)

編集後記

◎月日は百代の過客にして、行きこう年もまた旅人なり。芭蕉は人生の日々が旅であるといきっています。本会も創立以来、一泊二日の研修旅行を続けてきましたが年々参加者が増えて、本年は四六名の方が参加されて、京都嵯峨野の古蹟・古刹を巡ってきました。志を同じうする私達の歴史への旅は私達の人生をより豊かなものにしてくれます。

◎会報第一八号をおとけします。この中に、今回の旅行の行程の一部が興味深く述べられています。是非ご味読下さい。